

地域内外の関わる人同士をつなげる翻訳者

地域に関わる人に居場所を提供し 地域の人を巻き込む

空き家DIYイベント・研修講座



「テンリユウ堂」を拠点に活動する折山尚美氏は「私によくて地球にいい」をテーマに、地域資源で商品を開発。地域課題から新たな行事や文化につながる過程を、住民や移住者、関係人口や学生団体と取り組んでいる

天龍峡Z世代会議



天龍峡Z世代会議中に制作された実際のグラフィック・レコーディング。地域の魅力や今後の展望、活躍するプレイヤーの面々を絵と言葉で読み解いてある

地域内外のどれもが利用できるシェアカフェを経営する折山氏は、天龍峡エリア活性化に取り組んでいる。地域性として、昔から仲間意識が強く、地域資源を大切にしてきた反面、しがらみも強く、新しいアクションや若者が受け入れられづらいという側面も持っていたが、市とエアビーが連携するのを機にエリアの再活性化を提案し、活動のきっかけをつくった。そして「天龍峡Z世代会議」実施の際も、地域内外のZ世代たちの交流会を企画したり、会議当日も地元プレイヤーたちへ目的や意味を説明する時間をあらかじめ設け、自分ごととして捉えてもらえるような翻訳を丁寧実践した。結果、参加者みな天龍峡の中でやりたいことや関わりシロを発見でき、関係人口を創出することができた。

また、長野県が主導する関係人口創出を目的としたDIYイベントを実施した際にも、地域住民も参加できるような役割りを準備したり、Z世代と連携しながら回覧板を作成したりと、地域の人々に伝わるようさまざまな工夫を凝らしたことで、当日は観光協会をはじめ、地元企業や住民など多くの参加者があった。

「域外のZ世代は住民の心に入り込み、地域課題を等身大で見つけて行動に移せる救世主。物件については内覧する人も出てきており、建物が大きく予定です（テンリユウ堂・折山氏）」

地元リーダーたちも孫を見るようになった。まさに地域を巻き込んだの地域活性化の好例だ。

「地域プレイヤーの間で気づきと共感が生まれ、また域外に住むZ世代によって天龍峡の魅力が熱く語られることで、域内のZ世代やプレイヤーたちが刺激を受け、温めてきたアイデアが言語化される第一歩になりました（湯澤氏）」

結果、地元住民が主役となり、若者が巻き込まれる形で複数のプロジェクトが立ち上がった。

そのひとつが長野県共創人口構築事業「空き家DIYイベント」。長年空き家となつて荒れていた旧歯科医院を、地域全体が一丸となって片付けるものだ。DIYに直接参加しなくても炊き出しを手伝う住民がいたり、近隣の温泉施設は参加者に無料の入浴券を提供したりした。自身ができることで関わり合うこのイベントを通じ、163人以上の関係人口が生まれた。驚くべきは、その半数以上が域外からの参加者であり、その中のひと組は移住も決まった。

もうひとつのアプローチは、天龍峡エリアから車で15分圏内における宿泊施設の拡大だ。市では20年以上にわたって全国から積極的に教育旅行を受け入れてきており、その中心となるコンテントが農家民泊。

飯田市 結いターン移住定住推進課 湯澤英俊氏

あらゆる相談に対して、互いの価値観を認め合う場や役割を担い合う機会を提供することで居場所づくりに取り組み、移住定住の推進や関係人口の創出につなげている



そのベテラン農家さんたちが個人旅行も受け入れることができれば、地域の宿泊施設不足を補うことができると考えた。それに伴うウェブ制作や、直接予約を受け取る部分に不安を覚える宿主もいる中で、丁寧に勉強会を行うことで、エアビーへ登録する農家さんも少しずつ増えてきた。

「たった1年数カ月だけで、天龍峡に人と人、人と地域がつながる機会や拠点が生まれたことを実感できるし、地域内外双方からの人流が生まれてきています。今後は空き物件を活用した宿や拠点づくりを強化し、インバウンドも視野に入れた地域経済最大化への取り組みを推進していきたいと考えています（湯澤氏）」



掻き回されることで生まれる 化学反応が地域の元気に

市名の語源ともなっている“結い”の精神を大切にしてきた長野県飯田市。外部との意見交流や多様な取り組みによる刺激が火種になると同時に、地域住民の思いに共感するZ世代や外部からの補助者が関係人口として加わることで、共に取り組む地元住民も増えはじめた。

地域全体で取り組む 「結い」のまちづくり

東に南アルプス、西に中央アルプス、南北に天竜川が貫き、優れた景観と微細な四季の変化を持った豊かな風土を抱く飯田市。天龍峡をはじめ観光資源が豊富な地であり、周辺の自然を活かしたエコツーリズムや教育旅行にもいち早く取り組んできた。今後、中央新幹線の開通を見据えつつ、人と人とのつながりに重きを置いた関係人口を創出し、市独自の資源や文化を磨きあげ、持続可能で魅力あふれるまちづくりを目的として、21年、市と地域商社である南信州観光公社、エアビーの3者は包括連携協定を結んだ。

「天龍峡エリアでは空き物件の増加が目立つ反面、少し広めのエリアで考えると、農家

民泊の先進地があったり、若い世代が関わりたくなる人や資源の余白がまだあると考えました。エアビーと連携して研修を実施する中で、宿が目的地となつて人が動くことがわかったため、それを増やしていくことが、新しい人流やインバウンドの可能性をも広げ、地域経済をより活性化させる持続可能な取り組みになると考えました（飯田市結いターン移住定住推進課・湯澤氏）」

まず最初に、観光の視点ではなく、自分が普段住む場所としての天龍峡の魅力を具体的に捉え直す「天龍峡Z世代会議」を開催した。Z世代のアイデア出しをリードするインベシオンチームdotと連携し、地域内外の若者たち、事業者、行政、エアビーが一堂に話し、地域の魅力のアイデア出しと言語化を行った。

地方創生 with Airbnb

長野県

飯田市

課題の整理

- 観光客の伸び悩み
- 宿泊施設の減少
- 空き家の増加
- 空き店舗の増加
- 年功序列の人間関係

課題解決に向かうには？

- 域外の意見をもって、域内関係者と議論することで化学反応が起こり、新しいアイデアが生まれる。関わりシロを持って域外の若者が新たな地域プレイヤーとして活躍できる可能性も。
- しがらみや利権が複雑なエリアでも、地域全体を巻き込みながら課題解決への道筋を示すことで、協力的支援を得ることができ、持続可能かつ横展開できる取り組みが可能になる



DIYイベントでは、片づけの一部をトレジャーハントと見立て、その様子をオンラインでつないでアピール。イベントの情報が他地域にも広がった。結果、これまで声がかからなかったような空き家オーナーからの問い合わせも増え、個別に今後のプランを検討している

農家民泊事業者の拡大

農家民泊の個人向け対応と 地域の宿泊施設不足 双方を補うAirbnbの活用術

南信州と呼ばれる県南部の飯田市・下伊那郡を擁する地域は、体験修学旅行の誘致や、修学旅行における農家民泊事業などを全国に先駆けて取り組んできた。禍で体験教育旅行の在り方などが変容していく中、農家民泊事業者のレジリエンスを高めるために、また地域の宿泊施設不足を補うためにも、Airbnbのプラットフォームを活用しようとするニーズが高まってきている。

南信州の自然と人の魅力を 農家民泊事業者から世界へ

観光地域づくり法人である株式会社南信州観光公社と飯田市、ならびにエアビーは、3者連携の中で、天龍峡エリア周辺の農家民泊事業者の個人旅行対応へ向けて、着実な取り組みを進めている。

「旅の質が問われ、ほんものの感動」が求められる現代において、経験豊かな農家民泊の事業者のみならず南信州の自然と人の魅力をお伝えすることができれば、個人旅行のお客さまにも必ず満足していただける時間と空間を提供できると確信しています。また、それと同時に、農家のみなさんにとっても、新たな経済活動機会のひとつとして、大いに可能性を持った取り組みであると思えますので、3者で連携しながら勉強会などのサポートも進めていきたいと思っています」

個人旅行への対応としては、農家民泊の事業者に対する研修会を行い、エアビーへのリスティング掲載へ向けての不安の払拭や、ウェブページ制作についても細かくサポートしている。結果、現在5つの施設がエアビーへ掲載を開始、もしくは準備中という状況だ。オンラインに不慣れな事業者によるリスティング運営の不安要素は補助ホストを活用しながら払拭していく体制も検討中、またエアビーのプラットフォームに付加されている自動翻訳機能により、海外ゲストとのコミュニケーションも取れており、今後の伸びに期待が高まっている。

株式会社
南信州観光公社

高橋 充氏

体験型観光の企画・プロモーション・受け入れコーディネート、地域連携システムの構築および販売ツールの作成などの業務全般を担う



農家民泊事業者の個人旅行へ向けた研修会には地域のたくさんの農家さんたちが集まり、新たな民泊事業への関心がうかがえた



飯田市の NEW HOST

農家民泊で培った“人の温かみを感じられる宿”を世界へ発信

民宿 宮のまえ 柏木ちづ子さん



民宿「宮のまえ」は、禍以前まで南信州観光公社が取り組む農家民泊を長年行ってきたが、天龍峡エリア活性化の一助として、市、南信州観光公社、Airbnbと話し合いを重ね、昨年Airbnbへの掲載を開始。今年4月には初めてゲストが海外より訪問する予定だ。「普段会えないような人々と一緒に、自分が知らない世界を知れたり、深いつ

ながりができることにやりがいを感じています」

教育旅行と違い、Airbnbでは旅行者の情報をホスト側で確認しないと行かないが、分からないことはサポートセンターで親切に対応してもらえるので不安はないという。「私にとって天龍峡は結婚式をあげた思い出の土地。積極的に協力していきたいんです」



日常の暮らしを体感してもらえるような笑い声の絶えない空間を提供



飯田市 学びと未来

学んだこと

関係人口は地域のありのままに惹かれたファン

何度も通いたくなくなったり長期滞在したくなる関係人口は、地域のありのままの姿に惹かれたファン。人と人のつながりやその豊かさへの気づきは、やりがいや居場所を見出す機会となり、移住希望者増加にもつながる

未来へ向けて

暮らしと仕事のインターンとアンバサダー育成

移住準備軍へ向け、宿のホストと連携した暮らしのインターンと、事業所と連携した仕事のインターンとを掛け合わせた事業を立ち上げるとともに、移住はせずとも地域を発信してくれるアンバサダーの育成に力を入れていく